

★予告なしの避難訓練があります。

[illegible]



## ～ 幸福を願うと ～

主幹教諭 仁木 拓雄

保護者であれ、教師であれ、誰もが子供たちに対して抱く共通の願いがあります。それは、「幸せになってほしい」だと思います。

では、その幸せとは、何でしょうか。学歴、年収、社会的な成功、それとも健康でしょうか？いろいろなことが考えられると思いますが、世界では「幸福」について科学的に研究されてきています。

マサチューセッツ州ボストンにあるハーバード大学には、1938年から現在に至るまで、80年以上にわたって続けられている研究で「ハーバード成人発達研究」というものがあります。この研究は、当時のハーバード大学の学生 268 人と、ボストンの極貧層で育った少年たち 456 人、計 724 人の男性（とその家族）を追跡調査したものです。彼らが少年から青年になり、大人になって老人になるまで、どのような人生を歩み、何が彼らの健康と幸福を決定づけたのか。2年ごとに質問紙を送り、対面でのインタビューを行い、医療記録を調べ、血液検査や脳スキャンまで行いながら、膨大なデータを蓄積してきたものです。

そこで、導き出された一つの結論があります。

「私たちが健康に、そして幸福にするのは、富でも名声でも、無心に働くことでもない。質の良い人間関係こそが、私たちが幸せにする」

学歴や年収など、素晴らしいキャリアがあれば幸せになれると思いがちですが、80年にわたるデータが示したのは、学歴や年収、職業の社会的地位などは、幸福度や寿命とは直接的な関係が薄いということでした。

このことから学校、そして家庭において大切にしていかなければいけないことが明確になるのではないのでしょうか。

大人は子供たちに、「テストで良い点を取りなさい」「立派な職業に就けないよ」と伝えがちです。もちろん、それらは生きていくために必要な力ではあります。しかし、「幸福」を考える上で、それ以上に大切なのは、「他者と良い人間関係を築く力」を身に付けることです。そう考えると、学校は、その力を身に付ける貴重な「場」であると言えます。学校で「意見の違う友達と、どう折り合いをつけるか」「どのように友達と課題を解決していくか」「自分の失敗を認め、素直に謝ることができるか」「困った時に『助けて』と言える信頼関係を築けるか」など「人間関係のスキル」こそが、将来子供たちが幸せでいられるかを決める重要なものになるわけです。

本校でも、子供たちが「自分は一人ではない」「ここには信頼できる仲間がいる」と実感できるような環境づくりに尽力していきます。行事や日々の授業を通じて、ぶつかり合い、認め合い、深い絆を育む経験を大切にしていきます。

保護者の皆様におかれましても、学校での様々な関わりがこれからのお子さんの「幸福」を支えることにつながっていると思っていただければありがたいです。また、ご家庭でもいろいろ話し合ったり体験したりすることを通して、家族の良い「人間関係」を築いていってほしいです。



「すべての子供に、を」 だれひとり、取り残さない世界のためにー

みなさんなら、にどんな言葉を入れますか? 「教育」「笑顔」「水」「栄養」さまざまな言葉が考えられます。世界には、必要としているものを手に入れることができない子供たちがいます。ユニセフ募金をきっかけとして、改めて世界の子供たちに関心をもっていただけたらと思っています。募金は、金額ではなく、より多くの方に関心をもっていただくことを目的としております。上記の日程で、代表委員が朝、昇降口で集めますので、ご協力をよろしくお願いします。



### いじめアンケートから考える

### 生活九ちゃん(生活指導)

東京都教育委員会では、いじめや不登校、暴力行為等の問題行動の未然防止や早期発見・早期対応等につながる具体的な取組として、6月、11月、2月に「学校生活についてのアンケート」を実施しています。本校の6月のいじめ件数は、38件。11月のいじめ件数は、32件となっています。

いじめ件数は全国的に増えている傾向にあることはニュースで聞くことがあると思います。このようなニュースや情報を聞くと、保護者として心配になることは当然のことです。一方で、「いじめ」の定義では、『いじめ』とは、児童等に対して、当該児童等が在籍する学校に在籍している等、当該児童等と一定の人的関係にある他の児童等が行う心理的又は物理的な影響を与える行為（インターネットを通じて行われるものを含む。）であって、当該行為の対象となった児童等が心身の苦痛を感じているものをいう。』のようになっています。つまり、学校では小さいことでも「いじめ」と捉え、継続したり大きくなったりしないように指導しています。また、アンケートで分かった「いじめ」については、校内のいじめ防止対策委員会で報告し、対処方法など解決に向けて話し合われています。

2月の「学校生活についてのアンケート」でも、児童の声に耳を傾け、丁寧に関わっていきます。